

倫 理

(解答番号 ~)

第1問 以下は、プロ野球選手の契約更改のニュースを一緒に見ている友人AとBの会話である。これを読み、下の問い(問1~10)に答えよ。(配点 28)

- A：わあ、推定年俸6億円だって！ この選手、親も有名な元プロ野球選手だし、やっぱり㉔遺伝的素質や家庭環境に恵まれている方が、人生は有利だよな。
- B：こういう高額所得者にはたくさん税金を納めてもらって、福祉や㉕教育に関する制度や政策を通じて、恵まれない人にも還元してもらわないとね。
- A：私がこの選手なら、きっと㉖不満だろうな。自分の欲しいサービスを買うためにお金を出すのは分かるけど、㉗税金は他人のためにも使われるわけですよ。それではまるで、他人のために不必要に働かされているようなものだよ。
- B：君も言うように、家庭環境に恵まれている方が人生は有利だよな。その裏で、同じ素質があっても家が貧しいために㉘成功できない人がいるのは、不公平だよ。不公平な競争での勝利を自分の功績だと考えるのは、^{うぬぼ}自惚れだよ。
- A：でも、裕福な親が自分のお金で子どもの素質を伸ばしてやるのは、何も悪いことじゃないでしょう？ ㉙女性差別のように、いわれなく誰かを不利に扱うのは明らかに悪いことだし、そうした不公平は国が是正すべきだけど。
- B：確かに親は悪くない。それでも、家庭環境の違いのせいで人生に有利・不利が発生するのは、不公平だよ。本人には何の落ち度も㉚責任もないのだし。
- A：不運な人は気の毒だとは思うよ。でも、人生に運・不運はつきものだし、何より誰も悪いことはしてないよね。それが不公平だとはとうてい思えないし、国がお金持ちから多額の税金を搾り取る理由にはならないよ。
- B：不公平だよ。それに、国が支援しなければ不運な人は救われないでしょう？
- A：いや、不運な人の救済は、お金持ちが自分のお金で慈善団体をつくって自主的にやるべきだよ。今は㉛ボランティア活動も盛んだし、うまくいくよ。
- B：本当にそれが㉜望ましい社会だと思うの？ 不運な人が富裕層の施しを受けなければ活躍できない不平等な社会よりも、国の制度で平等な機会が保障される社会の方が、より公平で連帯感の強い社会になると思うんだけどな。

問 1 下線部④に関して、遺伝子の応用技術をめぐる問題についての記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 遺伝子組み換え技術は、植物などの遺伝子を操作することにより、除草剤や害虫に強い作物を作り出すという利点がある反面、生態系のバランスを崩す危険性がある。
- ② 着床前診断は、受精卵の遺伝子を調べることにより、子どもの重篤な遺伝性疾患の有無や発症の確率を事前に予測できるという利点がある反面、優生思想につながる危険性がある。
- ③ 遺伝子は、命の設計図とも言われるように、個人のパーソナリティを決定する。クローン人間の作成は、ある個人と完全に同じ性格の個人をもう一人作り出すことで、かけがえのない個人の尊厳を損なう危険性がある。
- ④ 遺伝情報は、究極のプライバシーとも言われるように、慎重な取扱いを必要とする。遺伝子診断は、個人の将来の病気のかかりやすさが予測されることで、就職や保険加入や結婚の場面での差別を生み出す危険性がある。

倫 理

問 2 下線部①に関して、次のア～ウは、教育をめぐる様々な考察や実践についての説明であるが、それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 2

ア 未熟な存在としてこの世に生まれ落ちた人間が、青年期に至って自己や性に対する自覚を強めるようになることを第二の誕生と表現し、子どもの自然な素質や成長に応じた教育の必要性を説いた。

イ 幕末に渡米し、欧米の近代文明の根底にはキリスト教道徳があるという洞察のもと、帰国後に学校を創立した。もっぱら知識のみに偏った教育に危惧を抱き、キリスト教に基づく良心教育を重んじた。

ウ 教育勅語に対する拝礼を信仰上の理由に基づいて拒否した「不敬事件」に触発され、教育勅語の趣旨を否定する反国家主義的な宗教だとしてキリスト教を排撃し、教育と宗教をめぐる論争を引き起こした。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-------|
| ① | ア | ピアジェ | イ | 新島襄 | ウ | 美濃部達吉 |
| ② | ア | ピアジェ | イ | 新島襄 | ウ | 井上哲次郎 |
| ③ | ア | ピアジェ | イ | 福沢諭吉 | ウ | 美濃部達吉 |
| ④ | ア | ピアジェ | イ | 福沢諭吉 | ウ | 井上哲次郎 |
| ⑤ | ア | ルソー | イ | 新島襄 | ウ | 美濃部達吉 |
| ⑥ | ア | ルソー | イ | 新島襄 | ウ | 井上哲次郎 |
| ⑦ | ア | ルソー | イ | 福沢諭吉 | ウ | 美濃部達吉 |
| ⑧ | ア | ルソー | イ | 福沢諭吉 | ウ | 井上哲次郎 |

問 3 下線部㉔に関連して、欲求不満に対する反応についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① 欲求が満たされないことに対して、代替りのものを欲求の対象に置き換え、それを満たすことで欲求不満の解消を試みることを、回避という。
- ② 欲求が満たされないことに対して、もっともらしい理由や理屈をつけて、欲求が満たされないこと自体を正当化することを、投射という。
- ③ 欲求が満たされないことに対して、欲求自体を抑え込み、不快な記憶を残したり、自責の念に駆られたりしないようにすることを、逃避という。
- ④ 欲求が満たされないことに対して、他人に八つ当たりするなど、短絡的・衝動的に欲求不満を解消させようとするのを、近道反応という。

倫 理

問 4 下線部④に関連して、ここに示されているような税金についての見方を批判する、法学者リーアム・マーフィーと哲学者トマス・ネーゲルによる次の文章を読み、ここから読み取れる内容として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 4

私たち各々が最初から「もって」おり、政府が私たちから公平に取り上げなければならないような、課税前所得なるものがあるわけではない。……租税システムは、あらかじめ適法であると見込まれた財産保有の分配・分布状態への侵入ではない。むしろ、それは、一連の財産保有が創出されるための条件の一部なのであり、またその財産保有の適法性は、租税も含めたシステム全体の公正さを検討することでしか、評価され得ない。そうしたシステムを背景とする限り、労働、投資、贈与といった通常の方法で実現される所得に対して、人々が適法的な権利を有していることは間違いない。しかし、租税システムは、その背景の本質的な部分——雇用契約やその他の経済上の取引から何を期待してよいかを決める——を構成しており、後から割り込んでくるものではない。

（『税と正義』より）

- ① 「ある人の課税前所得は当人の保有物であり、それを政府が課税によって奪い取っている」という見方は幻想である。元来、課税前所得のすべては政府のものであり、個人が所有権を主張できるものではない。
- ② ある人が何に対して適法な所有権をもつかは、税制を含めた背景的なシステムを通じて決められるべき事柄である。そのため、課税前所得のすべてがあたかも自分のものであるかのように仮定することはできない。
- ③ 「ある人の課税前所得は当人の保有物であり、それを政府が課税によって奪い取っている」という見方は幻想である。労働や投資の結果として生み出される所得は、すべての国民に対して均等に分配されなければならない。
- ④ ある人が何に対して適法な所有権をもつかは、税制を含めた背景的なシステムを通じて決められるべき事柄である。しかし、どのような租税システムが公正であるかは、市場での経済上の取引の結果によってしか決まらない。

倫理

問 5 下線部㊸に関して、次の二つの図は、13歳から29歳までの男女を対象として、「社会に出て成功するのに最も重要な要因」と、「昇給や昇進を決めるのに最も望ましい方法」について調査した結果である。これらの図から読み取れることとして最も適当なものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。

5

図1 社会に出て成功するのに最も重要な要因

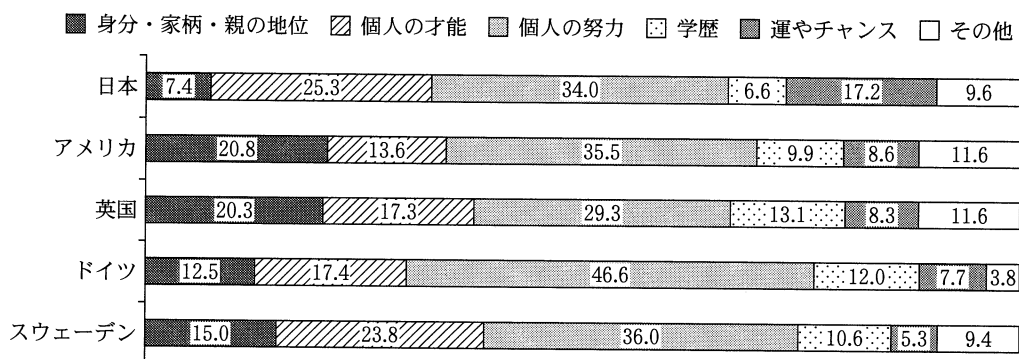
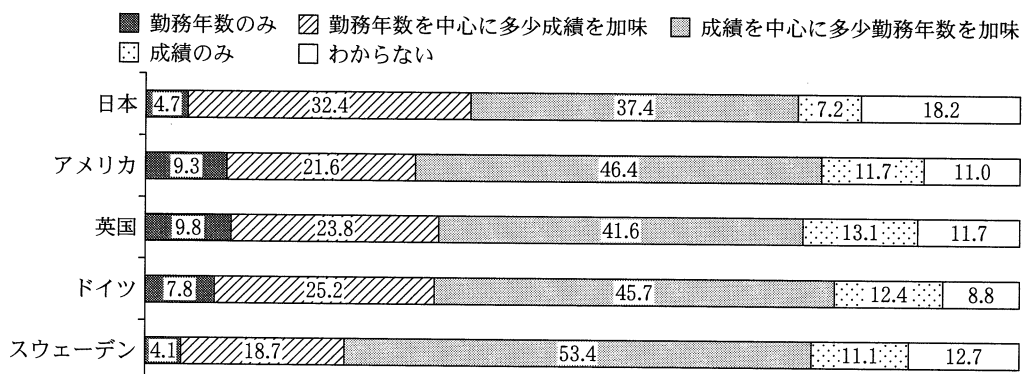


図2 昇給や昇進を決めるのに最も望ましい方法



(注) 図1・図2の数値は%を表す(国ごとに総和は100であるが、小数点以下第2位で四捨五入しているために、総和が100とならない項目もある)。

(資料) 内閣府『我が国と諸外国の若者の意識に関する調査』(平成25年度)より作成。

- ① 成功要因のうち、「身分・家柄・親の地位」と「個人の才能」は、個人の努力では容易に変更し難い要因である。いずれの国においても、これら2要因の割合の合計は、「個人の努力」の割合よりも小さい。よって、本調査対象者については、いずれの国においても個人の努力が最も重要な成功要因と考える傾向が高いと言える。
- ② 成功要因として「学歴」が最も重要と回答された割合は、多くても13.1%である。いずれの国においても、「その他」の項目を除いて、5項目のなかで下から1番目か2番目に低い割合である。よって、本調査対象者については、学歴が社会での成功を決定づけると考える者の割合は、相対的に低いと言える。
- ③ 昇給・昇進の方法について、成績を重視する2項目の割合を合計した値が最も大きい国はスウェーデンであり、次いでアメリカとドイツが並ぶ。これらの3か国は、成功要因として「個人の努力」を挙げる割合も上位であることから、努力の度合いが昇給・昇進に直結すべきだと考える傾向が高いと言える。
- ④ 昇給・昇進の方法について、日本は、成績を重視する2項目の割合を合計した値が、5か国のなかで最も低い。逆に、勤務年数を重視する2項目の割合を合計した値が、5か国のなかで最も高い。よって、日本では昇給・昇進について成績を重視すべきだと考える割合が、勤務年数を重視すべきだと考える割合よりも低いと言える。

倫 理

問 6 下線部①に関して、いわれのない差別への対策の一つに、アファーマティブ・アクションと呼ばれる措置がある。アファーマティブ・アクションについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- ① 人種やジェンダーの差異の積極的な承認に向けて集団的権利を保障する措置である。
- ② 人種的マイノリティや女性に対して就職や結婚の機会を保障するための措置である。
- ③ 社会における人種やジェンダー等の構造的差別の解消に向けて実施される、暫定的な措置である。
- ④ 社会における根絶不可能な構造的差別を不断に是正するために実施される、恒久的な措置である。

問 7 下線部㉔に関して、次のア～ウは、責任をめぐる考察を展開した様々な思想家についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 7

ア ハンス・ヨナスは、科学技術の発展により地球環境や人類の存続が脅かされている今日、現代世代は未来世代の存続に対する一方的な責任を負っていると説いた。

イ ラッセルは、核戦争によってもたらされる人類絶滅の危機を回避するために、著名な科学者とともに核兵器廃絶を訴え、平和に対する科学者の責任を説いた。

ウ シュヴァイツァーは、すべての生命には生きようとする意志が見いだされるとし、生命への畏敬に基づき、あらゆる生物の命を尊ぶことが人間の責任だと説いた。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

倫 理

問 8 下線部①に関して、ボランティア活動についての記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 8

- ① 地域社会でのボランティア活動が高まった結果として、近年では、高齢者介護や子育て支援のための公的な福祉制度・サービスを充実する必要性は、徐々に減少しつつある。
- ② 東日本大震災の発生直後、大勢の人々が被災地へと駆けつけ、被災者への支援を提供した結果、東日本大震災が発生した 2011 年は、ボランティア元年と呼ばれつつある。
- ③ インドで孤児や病人に対する救済活動に生涯を捧げたレイチェル・カーソンの実践は、キリスト教に基づく人間愛や社会的弱者への共感を背景としており、ボランティアの精神と通じるところがある。
- ④ ボランティアは、意志や好意などを意味するラテン語を語源としており、自発性(自主性)、社会性(福祉性)、および、対価としての報酬を求めないことが、顕著な特徴として指摘されている。

問 9 下線部①に関して、次の文章は、望ましい社会のあり方についてのコミュニタリアニズム(共同体主義)による見解を説明したものである。文章中の **a** ~ **c** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。 **9**

コミュニタリアニズムは、**a** が前提とする人間像や社会観を批判し、そのうえに成り立つ道徳観や正義観に異議を唱える。**a** では、社会とは自由で独立した個人の集合体であり、個人はあたかも自分にとって望ましい生き方を好きなように取捨選択することができる存在、いわば、**b** であるかのように捉えられている。ところが、現実の人間は、国家や民族、地域社会や家族など様々な共同体に帰属しており、その成員の間で広く共有され、その共同体それ自体を成り立たせる **c** に照らすことにより、はじめて自らのアイデンティティを形成し得る。自由で独立した個人を前提とし、またその結果として、個人の権利や個人間の公正さを重視する道徳観・正義観は、道徳や正義が共同体の **c** を離れて成立し得るかのようにみなしている点で、きようあい 狭隘な見方に陥っているのである。そのため、コミュニタリアニズムは、抽象的な正義によって一元的に統制された社会ではなく、それぞれの共同体が育んできた複数の徳が継承され、成員が友愛や道徳的・政治的な責務を積極的に担うような社会が望ましいと考える。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|--------|---|-----|
| ① | a | 社会主義 | b | 負荷なき自我 | c | 最高善 |
| ② | a | 社会主義 | b | 負荷なき自我 | c | 共通善 |
| ③ | a | 社会主義 | b | 超自我 | c | 最高善 |
| ④ | a | 社会主義 | b | 超自我 | c | 共通善 |
| ⑤ | a | 自由主義 | b | 負荷なき自我 | c | 最高善 |
| ⑥ | a | 自由主義 | b | 負荷なき自我 | c | 共通善 |
| ⑦ | a | 自由主義 | b | 超自我 | c | 最高善 |
| ⑧ | a | 自由主義 | b | 超自我 | c | 共通善 |

倫 理

問10 次のア～ウは、本文の内容についての記述である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 10

ア Aは、家庭環境に恵まれずに不利な人生を送る人がいるのは不公平であり、民間の慈善事業を通じて救済されるべきだと考えている。Bは、家庭環境に恵まれずに不利な人生を送ることは親の責任なので不公平であり、国がその責任を肩代わりして不公平を是正することが必要だと考えている。

イ Aは、家庭環境に恵まれずに不利な人生を送る人に対しては同情の余地があるかもしれないが、国が税金を用いて是正すべき不公平ではないと考えている。Bは、家庭環境に恵まれずに不利な人生を送ることは本人の責任ではないので不公平であり、国による課税を通じた是正が必要だと考えている。

ウ Aは、家庭環境の差によって人生に有利・不利が生じることは不公平ではなく、恵まれない人の救済は民間の慈善事業を通じて行うべきだと考えている。Bは、そうした人生の有利・不利は、たとえ誰一人悪いことをした結果でなくとも不公平であり、国がそれを是正する必要があると考えている。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

倫理

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

私たちは、個々の規律に反発を感じることもある。しかし、規律が人間の生にとって全く必要ないと思う人も少ないであろう。私たちの生を律する規範的なものもつ意味について、先哲たちはどのように理解してきたのだろうか。

生を律するものがなければ、社会秩序の実現は難しいと先哲たちは考えた。例えば、性悪説の立場をとった㉔儒家の荀子は、人間をありのままに放置するならば、争乱が生じてしまうので、礼を通じて人間の性質を人為的に矯正し、社会の秩序を構築すべきであると説いた。また、イスラーム教では、ムスリムの生と社会を正しく律するものとして㉕シャリーアが定められている。シャリーアがなければ、人間は善悪の判断ができず、過ちを犯してしまう。それゆえに、神の意志に沿った社会を築くために、法に則した生活が重視された。このように、生を律する規範的なものは、社会の安寧のために不可欠であるとされている。

さらに、規範的なものには、個々の人間を㉖よき生や理想的な境地へ導く側面もある。例えば、仏教では、人間は㉗煩惱に囚^{とら}われており、それに従って放逸な生を送るならば、苦に満ちた輪廻の生に埋没してしまうため、そこから逃れて絶対的な安らぎの境地に至る道として、様々な戒めや修行徳目が定められた。また、ストア派は、宇宙を貫く原理を㉘理法と捉え、この理法を認識して自発的にそれに従って生きる人は、真の自律を確立すると考えた。他方、ユダヤ教では、㉙律法を順守することが救済につながると考えられている。さらに、この宗教的伝統のなかで活動した㉚イエスは、様々な掟^{おきて}を含む律法のなかでも、神への愛と隣人愛が重要であるとみなし、これらの愛の掟を実践することによって、人間は神の永遠の命のなかで生きることができると説いた。このように、私たちの生を律するものを通じて、人間と㉛絶対的なものとのつながりが明らかとなり、このつながりを自覚しつつ、規範に従うことによって、人間は理想的な生や境地に導かれると理解されている。

先哲たちは、規範的なものが社会維持を目的として私たちを単に束縛し、自由を奪うために存在するとは考えなかった。むしろ、規範的なものと絶対的なものとのつながりを意識し、積極的に規範の意義を捉え直すことによって、社会のあり方だけでなく、そこに住まう個々の生をも豊かにする可能性を教えているのである。

- 問 1 下線部②に関連して、次の文章は、孔子の礼についての説明である。文章中の **a** ~ **c** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。 **11**

孔子は、社会を支える規範として礼を重んじたが、それは、単に外形的なものではなく、内面性に裏打ちされるべきであると考えた。つまり、他者を愛する心持ちである **a** が、立ち居振る舞いや表情・態度として外に現れ出たものが礼であるとしたのである。その実現には、私利私欲を抑えるとともに、他人も自分も欺くことなく、他人を自分のことのように思いやることが重要とされた。このうち、自分を欺かないことは、 **b** と呼ばれる。このようにして礼を体得した **c** によって、秩序ある社会の実現も可能であると孔子は考えた。

- ① a 恕 b 忠 c 真人
 ② a 恕 b 忠 c 君子
 ③ a 恕 b 信 c 真人
 ④ a 恕 b 信 c 君子
 ⑤ a 仁 b 忠 c 真人
 ⑥ a 仁 b 忠 c 君子
 ⑦ a 仁 b 信 c 真人
 ⑧ a 仁 b 信 c 君子

倫 理

問 2 下線部⑤に関して、次のア～ウは、シャリーアについての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 12

ア シャリーアは、クルアーン(コーラン)などに基づき、豚肉を食べることや酒を飲むことを禁じるなど、食生活に様々な制限を設けている。

イ シャリーアは、結婚や相続など、ムスリムの生活全般の規則を定めており、シャリーアを守って生きることが神への信仰の体现であるとされる。

ウ シャリーアは、神と人との関係と人間同士の関係の両方を規定しており、神に対して果たす義務である五行には、礼拝、^{めいそう}瞑想などが含まれる。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

問 3 下線部㉔に関連して、よき生き方を追求したソクラテスは、自らに下された死刑判決を不当としながらも、脱獄の勧めを拒み、国家の法に従って刑を受け入れた。彼の考えとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

13

- ① 国家は、理性に従って人々が相互に結んだ社会契約のうえに成立している。それゆえ、国家の不当な決定にも従うことが市民のよき生き方である。
- ② たとえ判決が不当であるとしても、脱獄して国家に対し不正を働いてはならない。不正は、それをなす者自身にとって例外なく悪だからである。
- ③ 脱獄して不正な者と国家にみなされれば、ただ生きても、よく生きることはできない。人々に正しいと思われることが正義であり、善だからである。
- ④ 悪いことだと知りつつ脱獄するのは、国家に害をなす行為である。だが、人間の幸福にとって最も重要なのは、国家に配慮して生きることである。

問 4 下線部㉑に関連して、仏教における煩惱や苦についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

14

- ① 「無自性」とは、煩惱によって自分固有の本性を見いだせないでいる状態を指す。それを脱するためには、快樂にまみれた生活にも極端な苦行にも陥ることのない、正しい修行を实践すべきだとされる。
- ② 人間は現世で様々な苦しみにあうが、なかでも代表的な苦として、生きること、老いること、病になること、死を目の当たりにすることの四つが説かれた。それらは「四苦」と呼ばれる。
- ③ 「三帰」とは、人間の有する様々な煩惱のうち、代表的なものを指す。それらは、貪りを意味する「貪」、怒りを意味する「瞋」、真理を知らない愚かさを意味する「癡」の三つである。
- ④ 人間の身心を構成する、「色」という物質的要素と「受・想・行・識」という精神的要素は、それら自体が苦であると説かれた。そのことは「五蘊盛苦」と呼ばれ、八苦の一つに数えられている。

倫 理

- 問 5 下線部㉔に関連して、次の文章は、ストア派の理法の考え方を発展させたキケロが、法の位置づけについて述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 15

この部分につきましては
著作権処理中の為
現在公開できません

(『法律について』より)

- ① 法律は自然に従って定められる限り、善人と悪人を公正に裁くことができる。というのも、太古以来、善人の総意によって、自然そのものが管理され、形作られてきたからである。
- ② 法律は自然に従って定められる限り、善悪と正邪を誤りなく区別することができる。なぜなら、法が模範とすべき原初からの自然は、あらゆるものの根源でもあるからである。
- ③ 法律は自然に従って定められただけでは、善人と悪人を公正に裁くことはできない。というのも、法律を用いるのは国家であり、それを構成する国民は自然とは関わりがないからである。
- ④ 法律は自然に従って定められただけでは、善悪と正邪を誤りなく区別することはできない。なぜなら、豊富な知識や経験に基づかなければ、法律は有害なものともなり得るからである。

問 6 下線部㉑に関して、律法の説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① イスラエル人は、律法を守れば祝福が与えられ、律法を破れば裁きの神としてのヤハウェに厳しく罰せられるとされている。
- ② 律法の中心をなす十戒は、神の絶対性に関わる宗教的な規定(義務)と人間のあり方に関わる道徳的な規定(義務)から成り立っている。
- ③ イスラエル人は、エジプトに移り住む際の心構えとして神から与えられた律法を、神と民との間に結ばれた契約の徴とみなしている。
- ④ 律法に従って神の恩恵に応える限り、イスラエル人は神に選ばれた特別な民として、神から民族の繁栄を約束されている。

問 7 下線部㉒に関して、イエスの教えについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① 愛を実践する生き方の基本として、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」と説いた。
- ② ユダヤ教の教典に書かれた律法を重視し、たとえ形式的であっても律法を厳格に順守しなければならないと説いた。
- ③ 旧約聖書の根幹をなす「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」という教えを受け継ぎ、敵をも赦す普遍的な愛を説いた。
- ④ 神が与えてくれた悔い改めの機会として、安息日を忠実に守り、すべての労働を避けなければならないと説いた。

倫 理

問 8 下線部①に関連して、絶対的なものを求める先哲の考えの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

18

- ① アリストテレスは、あらゆるものの根源にある究極的原因を一者と呼んだ。そして、一者がすべての善の原因であり、これと一致した生に真の幸福があるとして、一者を追い求めることを勧めた。
- ② ムハンマドは、アラブ世界の多神教を批判して、厳格な一神教であるイスラーム教を創始した。そして、アッラーに太陽神としての姿があることを認め、それを形にして崇拜すべきだと主張した。
- ③ 世親(ヴァスバンドゥ)は、宇宙の究極的原理である絶対者と、個人の本質が同一であると主張した。そして、そのことを直観して輪廻から解脱するために、欲望を捨て出家し、修行生活に入るべきだと唱えた。
- ④ 莊子は、万物はすべてひとしいとして、善悪や生死などの相対的な区別を超えるべきだと説いた。そして、天地万物の根源である道を自ら体現し、絶対自由の境地に遊ぶことを理想とした。

問 9 次のア～ウは、本文の内容についての記述である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 19

ア 荀子の思想では、人間の^{よこしま}邪な性質を矯正するために社会の構築が必要であり、また、イスラーム教では、イスラーム法に基づいて善悪の区別ができる共同体を築くべきだとされた。これらの思想では、個々の生に価値を認めることなく、絶対的な基準として規範的なものに従うことが重要とされる。

イ 仏教では、戒律によって欲望から離れることが悟りの境地に行き着くために必要であり、また、ストア派では、規範としてのロゴスに従って生きることが真の意味での自律につながると考えられた。これらの思想では、個々の人間の生を律するものが、理想的な生や境地にとって重要とされる。

ウ ユダヤ教では、救い^{あずか}に与るためにトーラーを順守することが求められ、また、イエスの思想では、そのなかでも愛の掟の実践がとりわけ重視された。これらの思想では、絶対的な神と我々の生を律するものとの結び付きを意識することを通じて、よき生の実現を目指すことが重要とされる。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

倫理

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

一喜一憂という言葉があるように、喜びは移ろいやすいものである。日本の先人たちは、どこに確かな喜びを見いだしたのであろうか。

記紀神話によれば、㉑ アマテラスが天の石屋戸に籠もり、天地が暗闇になったとき、八百万の神は新たに貴い神を迎えて喜ぶ様を演じ、アマテラスを誘い出した。アマテラスが石屋戸から出て天地に光が戻ると、八百万の神は大いに喜んだ。この神話には、㉒ 神の力に与ることを喜びとする古代の人々の考えが表れている。

㉓ 仏教が伝来すると、人の求める喜びは、いずれ苦に転じるものであり、仏の道に従ってこそ確かな喜びが得られると説かれた。浄土思想を広めた源信は、この世を離れ仏・菩薩の来迎に与って極楽に往生する喜びは、言葉で言い尽くせるものではないとしている。また、法然は、念仏を称えれば往生は確定するから、今、阿弥陀仏の誓願と出会い、㉔ 信心を得たことを喜ぶべきであると説いた。

近世では、㉕ 人倫的秩序が重視されるようになり、それを支える天地の働きに参与することに確かな喜びがあるとする傾向が強まった。儒学者の林羅山は、悪事や人の苦しみなどを喜ぶことは天理に反し、いずれ身を滅ぼすものであり、一家の安穩や天下太平など、㉖ 喜ぶべきことを喜ぶことが天理に適うと説いた。また、二宮尊徳は、親が子を愛すれば子が親を慕うように、互いに喜びで満たされるのが天地の道であり、商売でも売り手が買い手の一方だけが喜ぶのは道に外れるので、双方がともに喜ぶように営むべきであると論じている。

近代に入ると、西洋思想の影響を受け、㉗ 各人の人格や個性の実現に確かな喜びを見いだそうとする思潮が現れた。哲学者の㉘ 西田幾多郎は、自他の人格の根底に働く宇宙の統一力こそが喜びの根本であると考え、真の人格は個人的欲望を超えて他者への愛に喜びを見いだすものであると主張した。一方、文学者の有島武郎は、個性を自己の唯一の立脚地とする徹底した個人主義の立場から、愛の意義を個性の成長や完成にのみ認め、そこに嘘偽りのない充実した喜びがあるとした。

先人たちは、己を支えるよりどころに適うあり方に、確かな喜びを見いだした。他方、よりどころに基づくことのない喜びは、移ろいやすいものと考えたのである。喜びが何に基づくものかを省みることが、よき生を求めるうえで肝要であろう。

問 1 下線部②に関して、アマテラスが天の石屋戸に籠もったのは、スサノヲの犯した罪を目の当たりにしたためであった。スサノヲの行為として描かれた、古代日本における罪およびその償いの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① アマテラスの稲田の畔^{あぜ}を壊し、汚物をまきちらして宮殿^{けが}を穢すなど、農耕や祭祀^{さいし}を妨害するという罪を犯したため、その償いとして、多くの物品を献じる「禊^{あけ}い」を科せられた。
- ② 天上世界の統治権をアマテラスから奪い取ろうとする反逆の罪を犯したため、その償いとして、ヤマタノヲロチの退治を命じられ、改めて統治者に忠誠を誓う「清明心^{あか}」を証し立てた。
- ③ 母であるイザナミに会いに黄泉国に赴くが、その醜さにおののいて逃げ出し、地上世界に穢れを持ち込むという罪を犯したため、その償いとして、川で身を清める「禊^{あけ}」を行った。
- ④ 国造りを推進するうえで、草木を切り払い、鳥獸を襲うなどして、神々の宿る自然界を荒らすという罪を犯したため、その償いとして、災厄を始めとする「祟^{あや}り」を引き受けた。

倫 理

問 2 下線部①に関連して、日本の神についての和辻哲郎の考えとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 21

- ① 天皇は神聖にして侵すことのできない神であるから、忠孝一本という道徳に基づいて天皇に奉仕するのが日本人の責務である。
- ② 人は死後に遠い彼方の世界に行くのではなく、身近な山などに留まって、子孫を見守る神となり、定期的に子孫のもとを訪れ、豊穰ほうじょうをもたらす。
- ③ 神とは、共同体の外部から来訪し人々の饗応きょうおうを受けて去る存在であり、その様を模倣することで各種の芸能が成立した。
- ④ 日本神話には唯一絶対の究極神は存在せず、最も尊貴な神として祀られるアマテラスであっても、みずから他の神を祀っている。

問 3 下線部㉔に関連して、次の文章は、伝来した仏教の受容過程について述べたものである。 **a** ~ **c** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。 **22**

奈良時代には、朝廷の主導により、鎮護国家を目的として仏教が盛んに取り入れられた。なかでも聖武天皇は、諸国に国分寺・国分尼寺を建立したり、**a** などの護国経典を僧に読誦どくじゆさせたりして、篤いあつ仏教信仰を示している。また、朝廷は、唐から鑑真を招き、僧となろうとする者に **b** を授けるための制度を整えた。他方、行基らは、灌漑設備かんがいや道路・橋を造るといった社会事業を行うとともに、広く民衆に仏教を布教していった。平安中期には、念仏を称えながら諸国をめぐる **c** によって、民衆に浄土信仰が広められた。

- | | | | | | | |
|---|---|--------|---|-----|---|-----|
| ① | a | 『維摩経』 | b | 三 宝 | c | 空 也 |
| ② | a | 『維摩経』 | b | 三 宝 | c | 叡 尊 |
| ③ | a | 『維摩経』 | b | 戒 | c | 空 也 |
| ④ | a | 『維摩経』 | b | 戒 | c | 叡 尊 |
| ⑤ | a | 『金光明経』 | b | 三 宝 | c | 空 也 |
| ⑥ | a | 『金光明経』 | b | 三 宝 | c | 叡 尊 |
| ⑦ | a | 『金光明経』 | b | 戒 | c | 空 也 |
| ⑧ | a | 『金光明経』 | b | 戒 | c | 叡 尊 |

倫 理

問 4 下線部①に関して、『歎異抄』には、親鸞が、師の法然と自分の信心は同一であると語ったところ、法然も親鸞の主張を認めたと伝えられている。法然の認めた、親鸞の信心理解として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

23

- ① 信心は、悪人こそが阿弥陀仏による救いの本来の対象であることを理解して、救われるために悪行を犯してまでも得たものなのだから、法然と親鸞とで異なることはあり得ない。
- ② 信心は、阿弥陀仏の姿を実際に見るかのように思い描いたとき、心に生じてくるものであり、同じ阿弥陀仏を心に描いているのだから、法然と親鸞とで異なることはあり得ない。
- ③ 信心は、自分自身の努力で身に付けた知恵や才覚によって獲得したのではなく、そもそも阿弥陀仏からいただいたものなのだから、法然と親鸞とで異なることはあり得ない。
- ④ 信心は、行によって悟りを得ることはできないと知り、あらゆる行をすべて放棄し尽くした果てに、おのずと得られるものなのだから、法然と親鸞とで異なることはあり得ない。

問 5 下線部㉔に関して、次の文章は、儒学者の室鳩巢が人倫を重視する立場から、仏教を批判したものである。この文章に表れた彼の考えとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 24

但^{ただ}君を捨て親を捨てて仏に歸して、我が身一つを助けむと思ふは、世をば捨つれども、其の心は、君に代へ父に代へても、身をば捨てぬにてありけり。身を捨てずしては、世を捨つとも言ふべからず。世にありて名利を願ふも、世を捨てて極樂を願ふも、清濁は変はれど、身の樂を思ふは同じかるべし。……とても*捨つるとならば、第一に身の樂を思ふ心をも捨てて、^{きて}扱名利に離れて見よかし。世を逃るるにも及ばず、名教**中に自然の樂地あるべし。……人倫を捨て事物を離れて、ただ己が往生極樂を願ふは、世を捨つると言へど、いまだ身を捨て得ぬより起りて、樂欲甚だしとも言ふべし。

すんだいざつわ
〔駿台雑話〕より)

*とても：いずれにせよ

**名教：ここでは「聖人の教え」を指す

- ① 極樂への往生を願うのは、主君や親を捨ててでも自分が救われようとする
ことである。むしろ、そのように自分の樂を思う心をまず先に捨てれば、聖
人の教えに適った安樂の境地が開けるのである。
- ② 極樂への往生を願うのは、主君や親を捨ててでも自分が救われようとする
ことである。むしろ、そのように自分の樂を思う心をまず先に捨てて、主君
や親の往生を願うならば、自分の往生も^{かな}叶うのである。
- ③ 親や主君を捨てて極樂への往生を願ったとしても、一人きりでは樂は小さ
い。自分の樂を求めるのであれば、主君や親とともに樂を分かち合える聖人
の教えに従った方が、より大きな樂が得られるのである。
- ④ 親や主君を捨てて極樂への往生を願ったとしても、親や主君を捨てた罪が
消えるわけではない。聖人の教えに従い自分の樂を思う心を捨てて、その罪
を^{あがな}贖うならば、極樂に往生するよりも大きな樂が得られるのである。

倫理

問 6 下線部①に関連して、国学者である本居宣長もまた、「^{うれ}嬉しがるべきことは嬉しく、悲しがるべきことは悲しく」思うことを重視しているが、その思想は儒学者とは異なるものであった。宣長による儒学批判の内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 嬉しく思うべきこと、悲しく思うべきことの内実は、日本と中国とで異なるので、互いに尊重し合うべきなのに、儒学の教えがその差異に気づかず、己の感性のみを基準としているのは、横暴である。
- ② 何を嬉しく思い、何を悲しく思うかは一人一人違い、また同じ人でも時によって違うので、その時々感情のまま振る舞うべきなのに、儒学の教えが一律に道理で捉えようとしているのは、的外れである。
- ③ 嬉しいことを嬉しく思い、悲しいことを悲しく思うのは、事柄に相応して感情が動く人間本来のあり方なのに、儒学の教えが何事にも道理を先立て、^{みだ}妄りに心を動かさないよう説いているのは、うわべを飾る偽りである。
- ④ 人間は善事に励むことを嬉しく思い、悪事に手を染めることを悲しく思うよう生まれついているのに、儒学の教えが感情を適切に発動するよう説いているのは、誰もが既に行っていることを教えとした空論である。

倫 理

問 9 本文の内容に合致する記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① 記紀神話には、アマテラスが天の石屋戸から出て天地に光が戻ると八百万の神が喜んだと記されており、古代の人々が神の力に与ることを喜びと考えていたことが理解できる。八百万の神がアマテラスではない他の貴い神を喜んで迎える様子を演じた点にも、そうした考えが表れている。
- ② 伝来した仏教では、喜びを追い求める者は仏の道に背いているため、仏によって苦しみを与えられると説かれた。そのような者であっても、阿弥陀仏の力を信じ極楽浄土に往生できたとき、ないしは往生の確信が得られたとき、確かな喜びに至ることができると考えられた。
- ③ 人倫的秩序が重視された近世では、自分だけが儲けて得をすることや他人が苦しむことを喜ぶのは、天の道理に背くものであると説かれた。人倫の秩序は天に支えられたものであり、それに適う生き方に揺るぎない確かな喜びがあると考えられたのである。
- ④ 西洋の思想を受容した近代では、人格や個性の実現に確かな喜びを見いだそうとする思索が展開された。自己の欲望の実現を超えて他者を愛することに喜びを見いだす見解においても、それが真に自己の人格を実現することのあらわれだと考えられたのである。

倫理

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

私たちが世界とふれあい、生きるのは、時間を通じてのことである。だが、生の営みと不可分な時間について、日々の暮らしのなかではあまり深く考えることがないかもしれない。ここでは、時間をめぐる西洋近代思想の流れを追ってみよう。

周期的な天体の運行や季節の変化に注目した古代思想や、人類に神の審判がくだる終末といった特別な時を想定するキリスト教とは異なり、西洋では近代に入ると、時間を均質に経過するものとみる傾向が現れる。この見方は、㉑ルネサンス期を経て、ニュートンらによる数量的な自然の把握とともに強まった。㉒近代科学は、時間という均一の尺度により事象を計測し、自然現象を因果関係の連鎖として統一的に把握しようとしたのである。それによって、予測に基づく物質的世界の制御が容易になり、㉓近代社会は多くの恩恵をこうむった。

このような時間観念をもとに、カントは㉔人間の認識能力について考えた。彼は古典力学を踏まえつつ、時間を、私たちにそなわる㉕経験や認識の枠組みとして捉えたのである。だが、こうした枠組みの当てはまらない実践の地平をカントが見通していたことにも窺^{うかが}えるように、科学的な考え方で人間の生を隈なく照らし出すことは難しい。そこで、ニーチェのように、古代の周期的な時間観にも示唆を受け、出来事の反復に着目する者も現れた。循環的な時間のなかでなお、新しい価値の創造に取り組む㉖超人としての生き方を、彼は模索したのである。

人間のより具体的な生き方を問うなかで、時間が演じる役割を掘り下げた思想家もいる。例えば、㉗ベルクソンは記憶の機能に注目した。私たちは、自らの経験を無意識のうちにも記憶に刻むことで、それ以前とは異なる自分になる。それによって、私たちは二度と繰り返せない生を生きるのだとベルクソンは考えた。また、㉘ハイデガーは、「死への存在」ゆえの不安に注目する時間論を展開した。彼によれば、あらゆる瞬間に到来し得る死を自覚することで、私たちは没個性的な生き方から脱し、人間の本来のあり方を実現することができるのである。

思想家たちは、時間への問いを通して、時間と切り離せない私たちの生を捉え返し、充実した生を送るための指針を示してくれている。私たちも、時間について考えることで、自分の生き方を見直せるのではないだろうか。

問 1 下線部㉔に関して、ルネサンス期の文学・芸術についての説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① ボッカチオは、快楽を求める人々の姿を描いた『カンツォニエーレ』を著し、人間解放の精神を表現した。
- ② レオナルド・ダ・ヴィンチは、解剖学などを踏まえた絵画制作を通じ、人間や世界の新たな表現法を提示した。
- ③ アルベルティは、建築を始め様々な分野で活躍し、自らの意欲次第で何事をも成し遂げる人間像を示した。
- ④ ダンテは、罪に苦悩する人間の魂の浄化を描いた『神曲』を著し、人文主義的な機運の先駆けをなした。

問 2 下線部㉕に関して、近代科学の成立に貢献した思想家の一人にガリレイがいる。彼についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① 天体観測によって得られた精密な観測値に基づき、惑星が楕円軌道を描くという法則を発見して、伝統的な宇宙観に変更を迫った。
- ② 地上の物体と天空の惑星は共通の法則に従っているとすると、万有引力の考えを打ち出し、機械論的自然観に道をひらいた。
- ③ 実験をもとに自由落下の法則を発見し、近代物理学の基礎を築く一方、地動説を支持したために、宗教裁判にかけられた。
- ④ 宇宙は無限に広がっているという説を唱えるなど、教会とは相容れない考えを提示したために、異端者として火刑に処された。

倫 理

問 3 下線部㉔に関連して、科学の発達とも相まって発展した近代社会は、他方で負の側面を抱えこむことにもなった。この点を考察したウェーバーについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 31

- ① 合理化が推し進められた西洋近代においては、組織的な分業を旨とした官僚制による管理・支配が浸透しがちである点に着目し、そのもとで人々の個性や創造性が抑圧される危険性を明らかにした。
- ② 近代化の推進役である理性が道具的な性格に墮し、手段の効率性に囚^{とら}われて目的それ自体は顧みなくなることで、かえって野蛮な事態が生じる点に着目し、理性のあるべき姿を探る批判理論を展開した。
- ③ 目的の効率的な達成を目指す近代の政治的および経済的なシステムが、生活世界の植民地化をもたらすきらいのある点に着目し、それによって人々の日常的な行動や人間関係が侵食される事態を批判した。
- ④ 生産の大規模化が進行した西洋近代においては、労働を通じて自己を実現したり、他者と連帯したりすることが困難となっている点に着目し、そうした状況を労働の疎外(疎外された労働)と呼んだ。

問 4 下線部㉔に関して、人間の認識能力をめぐるカントの思想の説明として最も
適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 32

- ① 時間・空間という形式をもつ悟性と、量・質・関係・様相という形式をもつ感性の協働により、認識は成立する。それゆえ、「内容なき思考は空虚」であり、「概念なき直観は盲目」である。
- ② 受容した素材を、経験に先立って存する形式によって秩序づけるのだから、私たちの認識は単なる模写ではない。「認識が対象に従う」というよりは、むしろ「対象が認識に従う」のである。
- ③ 経験を通じて与えられるのは、現象のみである。だが、与えられた現象を手がかりとして、その背後に想定される物自体についてまで、私たちは認識をひろげることができるのである。
- ④ 神、宇宙の始まり、自由、霊魂の不滅など、私たちの経験を超越する事柄に関しては、理性はこれを認識の対象とすることができない。したがって、それらの存在は否定されるべきである。

倫 理

問 5 下線部㉔に関連して、次のア～ウは、経験に知識の源泉を求めた思想家の説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 33

ア 事物が存在するのは、私たちがこれを知覚する限りにおいてであり、心の外に物質的世界などは実在しないと考え、「存在するとは知覚されることである」と述べた。

イ 私たちには生まれつき一定の観念がそなわっているという見方を否定し、心のもとの状態を白紙に譬えつつ、あらゆる観念は経験に基づき後天的に形成されるとした。

ウ 因果関係が必然的に成り立っているとする考え方を疑問視し、原因と結果の結び付きは、むしろ習慣的な連想や想像力に由来する信念にほかならないと主張した。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------|---|-------|
| ① | ア | ヒューム | イ | ベーコン | ウ | バークリー |
| ② | ア | ヒューム | イ | ベーコン | ウ | ロック |
| ③ | ア | ヒューム | イ | ロック | ウ | バークリー |
| ④ | ア | ヒューム | イ | ロック | ウ | ベーコン |
| ⑤ | ア | バークリー | イ | ベーコン | ウ | ヒューム |
| ⑥ | ア | バークリー | イ | ベーコン | ウ | ロック |
| ⑦ | ア | バークリー | イ | ロック | ウ | ヒューム |
| ⑧ | ア | バークリー | イ | ロック | ウ | ベーコン |

- 問 6 下線部㉑に関して、次の文章は、超人をめぐるニーチェの思想についての説明である。 ~ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。

私たちの生きる世界を、あらゆることが目的もなく無限に繰り返される の世界と捉えるのは、ともすれば恐ろしいことであるとニーチェは言う。だが、そのことから目をそらさず、自らの人生を「ならば、もう一度」と肯定的に引き受ける を有するのが、ニーチェの考える超人である。生を肯定し、西洋の伝統的な道徳に囚われず を体現する超人は、自らの手で新しい価値を創造するのである。

- ① a 輪廻転生 b 運命愛 c 力への意志
 ② a 輪廻転生 b 運命愛 c 性の衝動
 ③ a 輪廻転生 b 自己愛 c 力への意志
 ④ a 輪廻転生 b 自己愛 c 性の衝動
 ⑤ a 永劫回帰 b 運命愛 c 力への意志
 ⑥ a 永劫回帰 b 運命愛 c 性の衝動
 ⑦ a 永劫回帰 b 自己愛 c 力への意志
 ⑧ a 永劫回帰 b 自己愛 c 性の衝動

倫 理

問 7 下線部㉔に関して、次のベルクソンの文章を読み、その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 35

同じ対象を見続けるような場合でも、いま私がつもっている視覚像は、ほんの少し時がたったという理由だけで、つい先ほどの像とは異なるものになる。私の記憶機能が、何がしかの過去を現在に押し込むからである。時間という道を進みながら、私の心的状態は絶えず膨張し続ける。……その過程は、ある一瞬が別の一瞬に置き換わるというようなものではない。……私たちの人格は、このようにして絶えず成長し、大きくなり、成熟する。その各々の瞬間は、以前あったものに付け加わる新しいものである。さらに言えば、それは単に新しいものというだけでなく、予見できないものでもある。……なぜなら、予見するとは、過去に知覚したものを未来に投影することであるからだ。……だが、これまでに知覚されなかったものは、必然的に予見不可能である。……私たちが芸術家として手がける生の一瞬一瞬は、一種の創造なのである。

（『創造的進化』より）

- ① 私たちの人格は、過去と現在を混ぜ合わせつつ、時間を通じ絶えず成熟する。そのことで過去が刻々と変質するため、私たちは、これまでに知覚したことのない事柄をも想起できるようになる。
- ② 私たちのもつ記憶機能は、絶えず過去を現在へ持ち越す。したがって、私たちは、これら残存する過去を投影することによって、自らの未来を見通すことができるのである。
- ③ 私たちの人格は、過去と現在を融合させながら、時間を通じ不断に成長する。このため、私たちが生きる各々の瞬間は、今までにない新しさをそなえ、芸術創作にも等しい創造性を孕むこととなる。
- ④ 私たちのもつ記憶機能は、不断に過去を現在に押し込む。したがって、私たちは、手持ちの過去を適宜活用しつつ、今までにない芸術作品を創造することができるのである。

問 8 下線部①に関して、次のア～ウのうち、ハイデガーの思想についての説明として正しいものはどれか。その組合せとして最も適当なものを、下の①～⑦のうちから一つ選べ。 36

ア 人間は、存在するとはそもそもいかなることかを問うことのできる、唯一の存在者である。私たちのそうしたありようは、現存在(ダーザイン)と呼ばれる。

イ 人間は、それ自体で存在する事物(即自存在)とは異なって、未来に向けて投企しつつ、自己を意識する。私たちのそうしたありようは、対自存在と呼ばれる。

ウ 人間は、世界のなかに投げ出されており(被投性)、そこで様々な事物や他者と関わりながら日常を生きる。私たちのそうしたありようは、世界内存在と呼ばれる。

- | | | |
|---------|-------|-------|
| ① ア | ② イ | ③ ウ |
| ④ アとイ | ⑤ アとウ | ⑥ イとウ |
| ⑦ アとイとウ | | |

倫 理

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 37

- ① 西洋近代思想による時間の問題への取組みは、私たちが目にする現象や私たち自身の生き方を、予測を踏まえ統御することを可能にした。このことから分かるのは、時間をめぐる考察が、生を肯定的に捉え、また、充実した生を実現するうえで、指針を与えてくれるということである。
- ② 西洋近代の思想家たちは、外的世界を念頭におく科学的時間観から出発し、やがて、時間の循環的な性格や、時間が私たちの生にもたらす反復不可能性などにも、着眼するようになった。彼らが教えてくれるのは、時間をめぐる考察に際しては、科学に基礎を求めるべきだということである。
- ③ 西洋近代思想による時間の問題への取組みは、同じことの繰り返しや迫り来る死など、人生の過酷な局面をしばしば照らし出すものであった。このことから分かるのは、時間について考えることが、生の厳しさを自覚し、時間を惜しんで効率よく生きることにつながるということである。
- ④ 西洋近代の思想家たちは、時間を均質に経過するものとみなす観点のみに囚われず、私たち人間の生を念頭におくなかで、時間のもつ様々な側面にまで、次第に視野をひろげた。彼らが教えてくれるのは、時間について考えることで、私たちの生を問い直すことができるということである。

問題と解答は、独立行政法人 大学入試センターホームページより転載しています。
ただし、著作権上の都合により、一部の問題・画像を省略しています。